

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.25 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成18年 7月25日発行

秋の自然観察会案内

野麦峠自然観察会

野麦の集落から、旧江戸街道をたどり野麦峠まで、ブナ・トチノキ等の夏緑広葉樹林の紅葉を楽しむとともに、亜高山帯下部の針葉樹林観察と野麦峠からの乗鞍岳の眺望を楽しめます。ハイキング程度の山道歩きです。

期 日 平成18年10月15日(日)

参加費 大人一人 3,000 円 (中学生以上) 子ども一人 1,500 円

日 程 : 7:00 丹生川町支所集合 出発 7:10 〓 別院 7:25 〓 高山駅 7:30
〓 高山短大正門前 7:40 〓 宮峠 〓 朝日町 〓 高根町野麦集落 9:00
野麦集落 …… 野麦峠(昼食) 14:00発 〓 高山着15:30(予定)

定 員 : 先着25名

申し込み・問い合わせ先

〒506-0035 高山市新宮町3415-16 小野木三郎

TEL (兼FAX) 0577-35-1763

締 め 切 り 平成18年9月22日(金) 必着

※ 雨天決行ですが、天候条件により臨機応変にコース・日程の変更があります。

自然観察指導： 本会副会長の小野木三郎、直井清正他が担当します。

☆ 申し込みは、ハガキに参加者名、住所、電話、乗車場所を明記して郵送してください。

平成 18 年度乗鞍岳のマイカー規制協議

乗鞍自動車利用適正化協議会(岐阜県)

4月7日に開かれ、自転車利用者への安全の呼びかけ、貸し切りバス事業者への低公害車の導入促進、外来植物防止対策の検討などを決めた。また、シャトルバスの中で使うマイカー規制のビデオを、市町村合併等により作り直すための予算も承認された。県地球環境課からは、大気汚染物質の減少が報告され、また外来植物の侵入対策の必要も提言された。ライチョウの生息数は減少傾向がみられるが、調査活動による影響が懸念されるため、本年度の調査は行わないと説明した。

乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会(長野県)

5月19日に総会が開かれ、例年通り通行規制を実施すること、地元旅館業者などをつくる乗鞍高原観光アソシエーションが、6月25日に「第1回信州・乗鞍天空マラソン」を開催することが承認された。地元旅館業者が要望していた、ご来光目的の観光客のため、午前3時半から開通することは、今後の幹事会で費用面や環境への影響などを踏まえながら、検討することで一致した。

※「信州・乗鞍天空マラソン」が、6月25日に行われ、313人が三本滝から大雪溪の往復23キロの行程を競った。

乗スカのマイカー規制4年、大気清浄化

北アルプス・乗鞍岳の山岳道路「乗鞍スカイライン」(高山市丹生川町)で、環境保護のためのマイカー規制が実施されて四年目を迎えた。規制後の調査で、沿線の大気の清浄効果が表れる一方で、二千メートルを超える高峰でも外来生物の侵入が進んでいることなどが分かり、環境保護の新しい対策が求められている。

同スカイラインは平湯峠(一、六八四メートル)から畳平(二、七〇二メートル)を結ぶ全長一四・四キロ。中部山岳国立公園内で、高地はハイマツ帯が広がり、国指定特別天然記念物のライチョウが生息するほか、珍しい高山植物も分布する。種々の宝庫だ。乗鞍自動車利用適正化協議会によると、マイカー規制前は、十一万台以上上った年間の入り込み車数は規制後、約一万

三千台にとどまっている。県地球環境課の調査では、規制後に二酸化硫黄や一酸化窒素などの観測値が年々減少。以前は、同市の国道41号沿線よりも高かった数値が、規制後の三力年はほとんど下回っている。同協議会は、貸し切りバス事業者への低公害車導入の促進などに取り組み、さらに大気

の清浄化を目指す方針。しかし、規制で効果が上がる中、調査で新たに浮き彫りになった問題もある。従来の乗鞍岳の植生を変化させる恐れのある外来種の侵入だ。沿線で年々、分布を拡大させているセイヨウタネボボは、数年前に畳平にある駐車場に到達した。同スカイラインの関係団体でつくる乗鞍美化の会は一昨年から、駐車場

で年間約千五百株を取り除いている。外来種は、駐車場に隣接するお花畑にも進出し、バイザーを務める岐阜大学の西條好迪助教授(六〇)は「外来種のナガハグサの群生が約一平方メートルに拡大傾向。近くに芽を伸ばすヤマガラシは、外来種の可能性があると懸念する。また「国立公園内でも特別保護区では、外来種と言えども勝手に除去できないのが現状」と、規制と保護の矛盾を指摘している。

同協議会は、始点の平湯峠で、路面に水を流して車両のタイヤに付着した植物の種子を落とすなどの対策を、今季中に試験的に実施したいとしている。

県地球環境課では、ライチョウの生息数は減少傾向だが、調査活動の影響が心配されるため、本年度の調査は行っていない。生物の環境調査と保護対策は、その作業も慎重さが欠かせない。

沿線を見回ると、県から委託された乗鞍環境パトロール員によると、マイカー規制の実施とともにごみのポイ捨てなどを注意する観光客も見られるといい、規制は利用者の意識も変えつつある。同スカイラインの営業は十月三十一日までの予定。昨季より約七千人多い約二十万人の利用客が見込まれているが、より大勢が雲上の絶景を楽しむには、一人一人の環境意識の向上が求められている。(井上愛)

外来生物侵入、新たな問題

山岳巡礼 乗 鞍 岳 (3,026m)

富田令禾 (文と絵)

戦後の日本の世直しに景気よく叩かれ出した太鼓の音の中に観光事業がある。この波にうまく便乗したのが乗鞍岳で、飛騨の観光の金看板となりドル箱となった。猫も杓子も浴衣がけで 3,000 メートルの雲上へ数時間で手軽にノシあがって日本アルプスの雄大な山気に親しめるというのだから、確かに画期的な観光事業のニューフェースであろう。

これというのも敗戦の元凶たる軍部が戦争最中に成層圏飛行の野望的研究の名目で、乗鞍岳のあの雄大な山上原に目をつけ、鶴ヶ池畔に航空研究所を建て、平湯峠頂上で県道とわかれて 16 キロの軍用道路を工費 40 余万円（其頃の時価）で、昭和 16 年 8 月から翌年の 9 月まで満 1 ヶ年の突貫工事で完成したもの、結局戦いは敗れて廃物になりかかったのをマンマと手に入れて観光道路に研究所の建物は乗鞍山荘としての観光ホテルに転身して現在のロマンスカー登山という大衆を随喜させている戦後版山岳鑑賞に利用されたのである。

この登山バスが開通したのは昭和 23 年 7 月で私も会社から招待券を貰って登り、なるほどこれは膝栗毛のマメの痛さよりは楽だし、山も静かで気分はあるなあと思っていたが今夏 8 月バスでは 3 回目としての、それもいつも若い女性たちの依頼による案内役とリーダー格で登ったのだが、あの急テンポな俗化ぶりに、いささか、つむじは尋常でない山男をして、アァ又何をかいわんやと、実は嘆かしめられているのである。

さじを投げてムツリ黙るのは世間知らずの山男の偏狭かもしれない。軍部が乗鞍のもつ格好な地勢に目をつけたと同様、そしてこの交通の便利を加算して、高層気象観測、高山医学、コロナ観測、宇宙線観測などの最新鋭科学が各大学、理研、科研などによって、この高所に続々と研究の殿堂が建設されている偉観は東洋では唯一、世界でも屈指の山上施設を誇っている驚異にまで目をそらして、山は山のままに返せなどと世迷言を申す勇氣？はさすがに無いのである。

乗鞍登山バスに厄介になったのは、たった 3 回だけであるが、親譲りの脛のかぼそいテクシーで登ったのが丁度 9 回、返らぬ昔の夢物語でもあるまいが、軍部が爆弾の工事を仕掛けぬ前の山の姿は夢にしては余りに鮮明に古寂閑静の汚されぬ雲上の樂園として脳裏に刻まれている。

今の宣伝ポスターやパンフレットの百花乱らるるお花畑などという文学が泣きはしないかわるほどの現実の様相はお話にならない。現在高山営林署が厳しく監視し保護に努力している畳平などは貧弱でお気の毒な位で、以前は文字通りの繚乱のお花畑で、今のように台湾坊主みたいに地肌の禿げたところなどはなかった。特にあの大雪溪のある不消ヶ池一帯は膚を没する位、緑と色彩の厚い花もうせんであった。いくつもの道路の開削で、3,000 メートルの高山らしい気分を割引させているのはやむを得ないとしても、弁当がらや紙屑の散乱振りには山を愛する山男としては我慢がならないなどと、ひとり角力で力んでも、せせら笑う世の中になったのだが……。

大正 8 年の第 1 回登山以来、いろいろな思い出があるが、大正 10 年の双六谷踏破の余勢を駆って下山終着の蒲田温泉から前夜の壮行達成祝宴で余ったビールを 2 本づつかっぱらって、電気技師の友人と二人、リュックにしるばせ一気に乗鞍頂上を極めて満を引いた無鉄砲登山は今思えば全くの冷汗もの。又、朝日新聞社の有名な登山家藤木九一氏を首班とする国民新聞記者らとの一行を案内して 5 月の残雪深いこの此岳を平金口の急峻な登攀に快哉を叫んだこと、その時朝日のニュース映画に撮られてがらになく尻込みしたヘマな行動が後日高山の映画館で封切されたとき、爆笑を買った面映ゆい思い出、さては私自身はそのつもりで無かったのに新婚の妻と此山へ登り別に嫉妬深

いといわれる山の神様の御機嫌を損なうような事はしなかったのに、快晴の頂上へ第一歩を立てた途端、御岳からまいてきた大乱雲と暴風に瞬時に奇襲され、三日三晩室堂小屋に完全に幽閉されるという情けないことになったこともある。

平湯温泉では心配して救援隊を出す騒ぎだったそうだが、私をよく知る湯治客の小学校長が、富田は山に経験が深いから大丈夫だろうと、中止させたと後で聞き、ハハアンと照れ臭くアゴを撫でるところを押つかぶせて、山男らしいいい新婚旅行でしたなアと、ひやかされ一層あかくなかったが、今だから白状するが、室堂で懇意になったその時の高山営林署の監視人の玉田という青年の助力で暴風後濃霧を突破して無事平湯へ下山したというのが真相である。（続く）



名古屋営林局誌「みどり」昭和 30 年（1955）1 月号 掲載
（許可を得て抜粋転載、一部現代語に変換）

富田令禾（とみたれいか）

明治 26 年（1893）4・13～昭和 60 年（1985）5・29

日本画家・郷土史家。本名は稔彦。初号を位峰。斐太中学、京都絵画専門学校卒。菊池契月に師事。昭和 20 年帰郷。山岳風景画家として知られる。昭和 21 年飛騨短歌会に参加、22 年、福田夕咲らと「道づれ吟社」を結成。当時の飛騨における代表的な文化人とされる。著書に『飛騨の伝説』上下、『飛騨の高山』。高山市芸術文化顕彰（昭 51）。【巴陵群像より抜粋】

この文は昨年、元営林署勤務の岡本誼さんから教えていただいた文で、「山岳巡礼(二)乗鞍岳」と題して、名古屋営林局誌『みどり』の昭和 30 年 1 月号に掲載されました。文中にもあるように車道が出来る以前から乗鞍に登っていた「山を愛する山男」が見た、昭和 20 年代の「ロマンスカー」と名づけられていた登山バスが登っていた当時の乗鞍の様子や想いが載せてあります。「現在高山営林署が厳しく監視し保護に努力している・・・」登山バスの運行で多くの人が入山するようになり、すでに環境が悪化している様子が見て取れます。この後スカイライン建設、完成後の大量入山により一気に環境が悪化したのは皆さんもご存知の通りです。

《母校の歌・8》

高山市立国府小学校 校歌

作詞 藪田 義雄

作曲 松本 民之助

一、
宮川の流れの岸になつめは実る
さいわいのしるしのように
赤い実が 赤い実が 約束される
美しい飛驒の国府の
手をつなぐ子らと
手をつなぐ五つの学び舎

二、
乗鞍を見はらすところ 稲穂はそよぐ
たくましく はたらくものの
喜びが 喜びが 約束される
美しい飛驒の国府の
手をつなぐ子らと
手をつなぐ五つの学び舎

昭和 34 年 3 月 23 日制定

明治 7 年 国府村大字広瀬町西念寺に広瀬小学校設立。明治 21 年、三日町尋常小学校と改称。昭和 22 年、国府村立国府小学校に改称。昭和 36 年、村内 5 小学校を統合。昭和 39 年 11 月、町制施行により国府町立、平成 17 年 2 月、市町村合併により高山市立となる。藪田義雄は歌人・詩人の北原白秋の門下に入り晩年は白秋の秘書を務めていた。藪田義雄・松本民之助両氏とも多くの校歌を手がけている。

高山市立国府小学校 岐阜県高山市国府町広瀬町 2586-6

飛驒市立古川中学校 校歌

作詞 牧 冬彦

作曲 高木 東六

一、
雲はしる 乗鞍岳に
湧きあがる 若き理想よ
光あれ 古川中学校
大いなる 日々の願いや
永久に 真理きわめん

二、
せせらぎは 欣びのせて
宮川の 流るる畔
誇りあれ 古川中学校
新たな 日々の誓いや
手を組みて 生命きたえん

三、
緑なす 学びの園に
若人の 育ち健やか
栄えあれ 古川中学校
果てしなき 日々の希望や
郷土の 明日をきずかん

昭和 25 年 4 月制定

昭和 22 年 4 月創立。昭和 41 年、古川町内の三分教室と二中学校を統合し現在地に増築。昭和 54 年 7 月、新校舎完成。平成 16 年、市町村合併により飛驒市立となる。平成 17 年、岐阜県駅伝大会史上初の 4 連覇。全国駅伝大会で岐阜県勢初となる 8 位入賞。作曲の高木東六も多くの校歌を手がけ、1904 年 7 月 7 日生まれで今年 102 歳を迎えた。

◎ 飛驒市立古川中学校 岐阜県飛驒市古川町沼町 100 番地

乗鞍展望お勧めスポット

その 11 丹生川町八本原林道



丹生川町瓜田より大規模林道に入り、途中から十二ヶ岳登山道分岐、八本原を通り久手に出る林道から見た乗鞍岳。未舗装で一部断崖絶壁の区間があり、落石などによりしばしば通行止めになることがあるので要注意。しかし乗鞍岳展望スポットとしては最高。ここから見る乗鞍岳には圧倒される。途中、眼下にこのシリーズ最初に取り上げた板殿集落が見える。今回の撮影地点は、ほうのき平スキー場(中央下部)を見下ろす位置だが、断崖絶壁区間でもある。

ほうのき平スキー場の尾根裏には五色ヶ原が広がる。(スキー場裏側が滝めぐりコース。右の尾根のずっと奥が池めぐりコースとなる) (今回でシリーズ終了)

【寄付・丹羽宏さん。会の発展のためにと多額の寄付を頂きました。ありがとうございました】

会員状況

平成 18 年 6 月末会員数 個人・家族 148 名 ・ 団体 4 団体

- 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に
入会をおすすめください
- ・ 郵便振替 00800-8-129365
 - ・ 振込先 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

くらがね通信 第 25 号 (夏号) 平成 18 年 7 月 25 日発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋
TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : アドプリンター